

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特色を生かし、生涯を通じて学び続けることのできる学力を備え、社会に貢献し、豊かに人生を送ることのできる人材を育成する。

- 1 深い学び…思考力・判断力・表現力を育成し、知識を基に個々の学びを深めることのできる学校
- 2 進路実現…進路選択の基礎となる確かな学力の定着を図り、生涯にわたって学び続ける力を育成する学校
- 3 共生推進教室設置校…違いを認め合い「ともに学び、ともに育つ」学校、一人ひとりの存在が大切にされる学校
- 4 地域からの信頼…行きたい学校、行かせたい学校として地域から信頼される学校

2 中期的目標

- 1 自らの進路を切り開くことのできる確かな学力の育成
 - (1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行う。
 - ア 自ら授業力向上に努めるだけでなく、相互授業見学、公開授業、研究協議、研修等により、授業改善に努める。
 - イ 「令和2年度学校経営推進費事業」により導入した全普通教室のプロジェクトなど、ICT 機器・視聴覚機器の活用を推進し魅力ある授業をつくる。
 - ウ 新学習指導要領や高大接続改革の主旨に則り、多様な「学校設定科目」の開設などにより総合学科の強みを生かした教育課程の編成をおこなう。

※ 学校教育自己診断生徒アンケート「興味関心を持って取り組むことができる授業が多い」(R1 : 72%、R2 : 72%、R3 : 71%) を令和6年度には 75%以上にする。
 - (2) 生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組みを実施する。
 - ア 探究的、体験的な学びの充実等、進路について自ら考える機会をつくり、生徒の学びのモチベーションを高める。
 - イ 補習や講習、進路ガイダンス等の充実により、満足する進路が実現できることをめざす。
 - ウ 家庭学習（授業外学習）に取り組む力の育成を図る。
 - エ 英検、GTEC、漢検などの資格取得を積極的に推進する。

※ 学校教育自己診断生徒アンケート「自分が決めた進路に満足」(R1 : 88%、R2 : 90%、R3 : 85%) を令和6年度には 90%以上を維持する。

※ 国公立大学、有名私立大学への進学実績の向上
 関関同立の現役合格者 (R1 : 18名、R2 : 25名、R3 : 25名) を30名以上、産近甲龍および四女子大（京都女子、同志社女子、武庫川女子、神戸女学院）合格者 (R1 : 77名、R2 : 156名、R3 : 124名) を令和6年度にも100名以上を維持する。
- 2 自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動、社会に開かれた教育課程の実践
 - (1) 学校行事や部活動を通じて主体性、協同性、コミュニケーション力など人間関係力の育成を図る。
 - ア 共生推進教室の生徒と総合学科の生徒との交流の機会を持ち、インクルーシブ教育の推進を図る。
 - イ 学校行事や部活動を生徒主体で運営することにより、自ら課題を発見し協働しながら解決していく力を育む。
 - (2) ボランティア活動・地域交流への取組みを促し自己肯定感を育む。
 - (3) 大学・専門学校・小中学校・子ども園などとの異校種間の連携を進め学びを深める。
 - (4) SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえ、国際交流を推進し、国際的な視野を育み、異文化理解を深める。
- 3 安全で安心な学校づくり
 - (1) 教職員が一枚岩となった生徒指導により、授業規律の確立、挨拶の励行、規範意識の醸成等をおこない、落ち着いた学校づくりを進める。
 - (2) 校内美化・清掃の取組みを充実し、過ごしやすい学習環境を整える。
 - (3) 教育相談体制を充実させ、いじめ防止に取り組み、中学校との連携を深め、生徒情報を入学前から早期に収集し、安心して学校生活を送れる環境を整える。
 - (4) 人権教育の充実を図り、一人ひとりの存在を大切に学校づくりを進める。
- 4 学校の組織力向上及び学校の魅力の発信
 - (1) 学校の教育目標を共有し、チームとして学校の教育活動に取り組む組織作りを行う。
 - ア PDCA サイクルを活用し、学校課題の解決を図る。
 - イ 研修の成果を共有し、教育課題及び Good Practice（学校改革に向けた他校の素晴らしい取組み）への理解を深める。
 - ウ 教職員の働き方改革に取り組み、教職員一人ひとりの意識改革を推進しながら、時間外在校等時間数の削減に努める。
 - (2) 学校の魅力の発信
 - ア 学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取り組む。
 - イ 学校 Web ページ、ブログ、広報資料等を活用して、学校の活動及び魅力が鮮明に伝わるように創意工夫、情報更新を行う。

※ 学校説明会での中学生満足度 (R1 : 92%、R2 : 91%、R3 : 93%) を令和6年度も 90%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><学校生活> 「1. 学校へ行くのが楽しい」 生徒 81%・保護者 78%、「2. 学校に信頼できる友達がいる」 生徒 96%・保護者 90%、「21. クラスには話しやすい雰囲気がある」 生徒 85%、保護者「13. 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしている」82%の肯定的回答があった。多くの生徒が、安心した高校生活を送っており、保護者も安心感を持っていることがうかがえる。</p> <p><学習活動> ・「5. 実験・観察・実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある。」生徒 63%（1%アップ）、「6. ボランティアや高大連携など、学校外で学ぶ機会がある。」生徒 57%（10%アップ）、「7. 授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表することがある。」生徒 83%（5%アップ）、「8. 学校での様々な活動をとおして、自分の考えを文章にまとめる力が身に付いた。」生徒 68%（3%アップ3年間で11%アップ）、「10. テストの得点だけではなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢などを考えて成績が付けられている。」生徒 81%。学習に関する肯定率は多くの項目で増加した。新学習指導要領に沿った授業に向けた教員による授業改善の工夫や努力が成果として表れている。</p>	<p>第1回（6/17） 〈教育相談について〉自尊感情、自己肯定感を大事にし、一人ひとりの存在が大切にされる学校がよい学校である。 〈地域連携について〉子どもたちの居場所づくりの活動に携わっているのだが、豊中市南部はなかなか学生と連携できない。なるべく高校生を引っ張りたい。去年から千里青雲高校美術部とつながりを持っている。コロナであまりイベントができないが七夕プロジェクトなど地域につなげてほしい。</p> <p>第2回（11/1） 〈授業見学について〉選択科目の多さに魅かれた。時代の変わりを感じる。一生懸命、教師も生徒もやっている。授業を受けていて、教師の声とともにスクリーンの画面の色を変えるなど、どんどん進化していて、先生方が色々な努力をしていて感動した。 〈進路指導について〉色々と考えて工夫をしている。データを示しながら、最後まで頑張ろう、努力は報われると生徒に伝えていることが素晴らしい。</p> <p>第3回（2/2） 〈校則について〉生徒たちが主体的に考え保護者も交えていければよい。 〈自己診断〉9割近い生徒が進路に満足。中学校から見ても魅力的。このことを発信できればよい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 自らの進路を切り開くことのできる 確かな学力の育成	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業 ア 授業研究委員会、を軸とした組織的な授業改善	(1) ア・授業研究委員会を中心にして生徒1人1台端末を活用した研究授業を行う。 ・総合学科の特色である少人数授業を通し、主体的・対話的で深い学び、思考力や課題解決能力の育成に向けた授業改善をおこなう。	(1) ア・教員学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学びに向け、指導方法の工夫・改善をおこなっている。」80%以上維持[87%] ・教員学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。」80%以上維持[80%]	(1) ア・教員学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学びに向け、指導方法の工夫・改善をおこなっている。」81%で6ポイント減。昨年は8ポイント上昇したが、今年度は一昨年並みに戻った。研修等により再度意識改革をめざしたい。(○) ・教員学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。」76%で4ポイント減。授業研究委員会で検討し、授業研究を促進させたい。(△)
	イ ICT活用委員会を軸とした組織的な授業改革	イ・ICT機器を活用し、視覚的なアプローチを通したわかり易い授業作りをテーマに研修を行う。	イ・教員学校教育自己診断「情報機器を教科の授業で活用している。」80%以上維持[88%]	イ・教員学校教育自己診断「情報機器を教科の授業で活用している。」80%で8ポイント減。ICT活用委員会で検討し、研修等により再度意識改革をめざしたい。(○)
	(2) 生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組み ア 青雲道場の実施、生活習慣および学習習慣の定着 イ 部活動との両立	(2) ア・青雲道場(補習や講習、勉強合宿、大勉強会、自習室など)を実施する。 ・学習課題の充実に加え、スマホ依存への対策等により正しい生活習慣を確立させ、授業外の学習習慣の定着をさせる。 イ・文武両道の学校創りに向け、部活動と学習の両立を常に意識させる。	(2) ア・生徒学校教育自己診断「自習室・HR教室での自習」60%[59%] ・生徒学校教育自己診断「家庭学習(授業外学習)1時間以上」50%以上維持[53%] イ・生徒学校教育自己診断「勉強と部活動の両立」65%以上維持[70%]	(2) ア・生徒学校教育自己診断「自習室・HR教室での自習」53%で6ポイント減。学習保障と働き方改革のバランスを検討し、さらなる上昇をめざしたい。(△) ・生徒学校教育自己診断「家庭学習(授業外学習)1時間以上」43%で10ポイント減。1、2年次から進路実現への動機づけを強化したい。(△) イ・生徒学校教育自己診断「勉強と部活動の両立」68%で2ポイント減。文武両道をテーマに掲げ、さらなる上昇をめざしたい。(○)
2 自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動、社会に開かれた教育課程の実践	(1) 人間関係力の育成を図る ア 部活動 イ 学校行事 ウ コミュニケーション力の育成	(1) ア・新入生に説明会を実施し部活動の加入を推進し、人間関係を築く力を育てる。 イ・学校行事において、主体性の育成を重点におきながら、生徒の満足度を高める。 ウ・授業等を通じて、自らの考えをまとめたり、わかり易く伝えたりする力を育成する。	(1) ア・部活動加入率:80%以上を維持[84%] イ・生徒学校教育自己診断「行事が楽しい」80%以上維持[83%] ウ・生徒学校教育自己診断「授業では、自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」75%以上維持[78%]	(1) ア・部活動加入率は80%で4ポイント減であるが、依然、高い数値を維持できている。生徒数減の影響が気になるがさらなる上昇をめざしたい。(○) イ・生徒学校教育自己診断「行事が楽しい」88%で5ポイント上昇。コロナ前と比較しても16ポイント上昇。さらなる上昇をめざしたい。(◎) ウ・生徒学校教育自己診断「授業では、自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」83%で5ポイント上昇。「主体的・対話的で深い学び」が定着しつつある。(◎)
	(2) 自己肯定感の育み ア ボランティア活動・地域交流・高大連携	(2) ア・部活動および個人参加も含め、ボランティア活動への参加や地元小中学校や大学との連携事業、さらに地域行事等における交流を積極的に推進する。	(2) ア・ボランティア活動参加生徒50名以上を維持[26名] ・部活動を通して中学校や地域等との交流45回以上[41回] ・大学、専門学校等からの出前授業に加え、小中学校、こども園などへの出前授業を7団体以上実施する。[7団体]	(2) ア・公民館活動や地域子育て支援、豊中市行政機関からの依頼等への協力、高齢者施設訪問などに111名の生徒がボランティアとして参加した。さらに連携先を増やしたい。(◎) ・部活動を通して中学校や地域等と49回交流し、大幅に回数増となった。(◎) ・行政機関、大学、専門学校、企業等10団体から本校への出前授業、また、本校生徒が2つのこども園へ出向き楽器演奏や人形劇を実施、さらに、本校教員が8つの中学校に出向き授業を実施した。規模を大幅に拡大できた。(◎)

府立千里青雲高等学校

	(3) 国際交流の推進 ア SDGs や with コロナの視点を踏まえた国際交流	(3) ア・国際交流企画として AFS 日本協会と連携した留学生との交流や Web 会議システムを用いた海外の高校生との交流を通して国際理解教育を推進する。	(3) ア・対面あるいは Web 会議システムを用いた交流を 1 回以上実施する。	(3) ア・Web 会議システムを用いて台湾の高校生との交流を 1 回、また、コロナ禍で 2 年間実施できなかった AFS 日本協会と連携した留学生との交流も復活させることができた。(◎)
3 安全で安心な学校づくり	(1) 生徒指導、遅刻指導、仲間づくり、過ごしやすい学習環境 ア 生徒指導・遅刻指導・挨拶の励行	(1) ア・学年団と生徒指導部が中心となり、朝の立ち番や担任による個別指導などを通して学校全体で遅刻数の減少を図る。 ・挨拶習慣醸成のため、教員から生徒への挨拶を励行する。 ・生徒の内面に切り込む、説得と納得を軸とした生徒指導を構築する。	(1) ア・遅刻者数を 10%減[19%減] ・生徒学校教育自己診断「先生の指導に納得」60%[58%]	(1) ア・遅刻者数は 1630 名で 12%増となってしまった。来年度に向けて学年、分掌の取組みを検討し、改善したい。(△) ・生徒学校教育自己診断「先生の指導に納得」49%で 9 ポイント減。コミュニケーションを大切にしたり粘り強い指導を心がける。(△)
	イ 生徒間の信頼関係	イ・1 年次生で仲間づくり研修を実施して生徒間の信頼関係の構築を図る。	イ・生徒学校教育自己診断「信頼できる友だちがいる。」90%以上維持[93%] ・生徒学校教育自己診断「クラスに話しやすい雰囲気がある。」80%以上維持[85%]	イ・生徒学校教育自己診断「信頼できる友だちがいる。」96%で 3 ポイント上昇。(◎) ・生徒学校教育自己診断「クラスに話しやすい雰囲気がある。」85%で昨年並みであった。今後も学校行事を通して信頼、安心を醸成したい。(○)
	ウ 学習環境の整備	ウ・校内美化・清掃の取組みを充実し、過ごしやすい学習環境を整える。	ウ・生徒学校教育自己診断「自分は学校で清掃をきちんと行っている。」90%以上維持[95%]	ウ・生徒学校教育自己診断「自分は学校で清掃をきちんと行っている。」92%で 3 ポイント減となったが依然、高い数値を維持できている。(○)
	(2) 教育相談体制の充実 ア 学校全体での取組み	(2) ア・ケース会議を可能な限り開催し職員会議の機会を利用して生徒情報の共有化を図り、学校全体で取り組む。 ・中学校との連携を深め、生徒情報を早期に収集し、生徒指導の充実を図る。	(2) ア・教員学校教育自己診断「生徒情報の共有化を図りチームで対応」85%以上を維持[86%] ・新しい組織を編成のうえ、入学前に生徒情報を収集し、入学後の生徒指導に活用する。	(2) ア・教員学校教育自己診断「生徒情報の共有化を図りチームで対応」87%で 1 ポイント上昇。さらに教育相談の機能を高めたい。(○) ・今年度、新しい取組みとして入学前に中学校と連携し生徒情報を組織的に収集し、入学後の生徒指導に活用できた。それが転退学者数の減少につながった。(◎)
	(3) 人権教育の充実 ア 人権研修	(3) ア・教職員向け人権研修の内容を再検討し、教職員の人権意識を高める。 イ・保護者と人権課題を共有するための取組みをおこなう。	(3) ア・教職員学校教育自己診断「人権課題に対して教職員で話し合っている。」70%[67%] イ・保護者学校教育自己診断「学校は人権を尊重する意識を育てようとしている。」80%以上を維持 [84%]	(3) ア・教職員学校教育自己診断「人権課題に対して教職員で話し合っている。」72%で 5 ポイント上昇。(◎) イ・保護者学校教育自己診断「学校は人権を尊重する意識を育てようとしている。」83%で 1 ポイント減となったが依然、高い数値を維持できている。(○)
4 学校の組織力の向上及び学校の魅力の発信	(1) チームとして学校の教育活動に取り組む組織作り ア・研修成果や教育課題の共有 ・教員集団のチームワーク向上	(1) ア・研修の成果や教育課題、Good Practiceを共有する機会やミーティングを設け、話題にすることにより、チームとして教育活動に取り組む組織をめざす。	(1) ア・教員学校教育自己診断「研修報告の成果の共有」80%以上維持[86%] ・教職員学校教育自己診断「教育活動について、日常的に話し合っている。」80%以上[85%]	(1) ア・教員学校教育自己診断「研修報告の成果の共有」86%で昨年と同数値。依然、高い数値を維持できている。(○) ・教職員学校教育自己診断「教育活動について、日常的に話し合っている。」90%で 5 ポイント上昇。教員研修の実施形体を工夫し教員間のコミュニケーション活性化をめざしている。(◎)

府立千里青雲高等学校

<p>イ・働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の効率化 ・部活動顧問の負担軽減 ・ノー残業デーの推進 <p>ウ 組織改善に向けた保護者アンケートの充実</p> <p>(2) 学校の魅力の発信</p> <p>ア 学校説明会</p> <p>イ 学校Webページ・ブログ・広報資料</p>	<p>イ・「会議の開始時間を遵守する」を組織の統一指針とし、効率的な進行に向けた工夫を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動顧問業務量の平準化推進やノー残業デーの徹底など、様々な取り組みを通して、全教員の月平均超過勤務時間を減少させる。 <p>ウ・学校教育活動に対する保護者の関心を高めるとともに、趣旨や意義をしっかりと説明し、学校教育診断の回収率を高める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員及び生徒がともに、学校の魅力づくりを意識して行動する。学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取り組む。</p> <p>イ・学校 Web ページ、ブログ、広報資料をこまめに更新して、学校の活動及び魅力を鮮明に伝える。</p>	<p>イ・教員学校教育自己診断「各種会議が効率的に行なわれるよう工夫されている。」70%以上[64%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月ごとの超過勤務時間の年度平均45時間以下[47時間] <p>ウ・保護者学校教育自己診断の回収率80%以上[81%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校説明会に参加した中学生対象に実施するアンケートの満足度90%以上維持[93%]</p> <p>イ・ブログ(図書、学年、部活動、青雲道場、校長)の更新400回以上を維持[432回]</p>	<p>イ・教員学校教育自己診断「各種会議が効率的に行なわれるよう工夫されている。」69%で17ポイント上昇。開始時間厳守の徹底、ペーパーレス化を進めた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月ごとの超過勤務時間の年度平均は44時間24分で目標を達成できた。(○) <p>ウ・保護者学校教育自己診断の回収率82%で1ポイント上昇。今年度よりグループウェアを活用した成果といえる。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校説明会に参加した中学生対象に実施するアンケートの満足度92%で1ポイント減となったが依然、高い数値を維持できている。(○)</p> <p>イ・これまでのブログに加え、学校公式インスタグラムをスタートさせた。ブログ更新回数442回。インスタグラム投稿数320で広報活動は大幅に活性化させることができた。(◎)</p>
--	---	---	---